

授業科目	臨床判断 (変化への気づきと判断)	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年)	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	肝硬変の事例を用いて、病態の変化に気づき、何が起きているのか考えられるよう、看護を導く臨床判断の基礎的能力を養う。				
科目目標	1. 臨床判断とは何かを理解しできる。 2. 事例を通して、臨床判断過程を思考できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 臨床判断とは 2. 肝臓の正常な構造と機能 1) 肝臓の構造と機能 2) 肝臓の代謝機能				講義 グループワーク
2～4 回	3～5. 肝臓の病態の理解 1) 病因は正常な機能に及ぼす影響 2) 病因と検査との関係 (1) 血液検査 (2) 画像検査 3) 肝硬変の症状				
5～6 回	6～7. 体の変化に合わせて考える 				

授業科目	生活援助技術 (感染・環境・食事・活動)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 10 時間 (講師別)
担 当 者	坂井 典子 (臨床経験 28 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な看護技術をおこなうための基礎的能力を養う。				
科目目標	1. 生活援助技術が安全安楽に考慮しながら実施できる。 2. 相手を尊重した態度や倫理性をもった態度で技術の提供ができる。 3. 感染防止の技術が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 環境調整技術 1) 援助の基礎知識 2) 援助の実際 (1) ベッド周囲の環境整備 (2) ベッドメイキング				演習
2 回	2. 食事援助の基礎知識 1) 食事栄養の意義 2) 食事と栄養に関する基礎知識				演習
3 回	3. 食事摂取の介助 (からだの知識と日常生活行動をつなぐ) 1) 援助の基礎知識 2) 食事介助 3) 非経口的栄養摂取の援助 (1) 経管栄養法 (2) 経鼻胃チューブの挿入 (3) 中心静脈栄養法				演習
4 回	4. 活動・休息援助技術 1) 基本的活動の援助 (1) 基本的活動の基礎知識 (2) 移動 ①体位変換・保持、自動・他動運動、歩行・移動介助 ②移乗介助、車椅子・ストレッチャー移送の援助				演習
5 回	2) 睡眠・休息の援助 (1) 援助の基礎知識 (2) 睡眠・休息の援助				講義
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病理・病態生理学、看護学概論、生活援助技術、看護過程				
備考	演習中心の科目であり、モデル人形を使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。				

授業科目	生活援助技術 (清潔・排泄)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 16 時間 (講師別)
担 当 者	坂井 典子 (臨床経験 28 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	科学的根拠に基づいた看護実践に必要な看護技術をおこなうための基礎的能力を養う。				
科目目標	4. 生活援助技術が安全安楽に考慮しながら実施できる。 5. 相手を尊重した態度や倫理性をもった態度で技術の提供ができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～2 回	1. 清潔・衣生活援助技術 1) 清潔援助・衣生活の基礎知識 (からだの知識と日常生活行動をつなぐ) 2) 清潔援助の実際 (1) 入浴・シャワー浴、足浴・手浴の介助、口腔ケア (2) 臥床患者の洗髪、整容 (3) 全身の保清 陰部の保清 (陰部洗浄)、全身清拭、寝衣交換				講義・演習
3 回					講義・演習
4 回					講義・演習
5～6 回	2. 自然排尿および自然排便の基礎知識 1) 排泄の意義 2) 排泄のメカニズム 3) 排泄のアセスメント 3. 自然排尿および自然排便の介助 1) トイレにおける排泄介助 2) 床上排泄援助 3) おむつによる排泄援助 4. 排便を促す援助 1) 浣腸 (グリセリン浣腸) 2) 摘便 5. ストーマケアの基礎知識 6. 導尿 1) 一時的導尿 2) 持続的導尿 (膀胱留置カテーテルの管理含む)				講義・演習
7 回					演習
8 回	7. 終了試験				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書:『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書:『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	清潔・衣生活:筆記試験 15 点、技術試験 20 点 排泄:筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅱ、看護学概論、生活援助技術、看護過程				
備考	演習中心の科目であり、学生間もしくはモデル人形を使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。洗髪援助技術は演習および技術チェックを行います。そのほかの清潔援助技術は、どのようにすれば安全安楽で効果的かを考えながら学生同士で練習して下さい。				

授業科目	診療に伴う技術	単位数	1 単位	時間数	30 時のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	坂井 典子 （臨床経験 28 年） ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	科学的根拠に基づいた診療に伴う援助に必要な基礎的能力を養う。				
科目目標	6. 診療の補助が安全安楽に考慮しながら実施できる。 7. 相手を尊重した態度や倫理性をもった態度で技術の提供ができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 診察の介助技術と検体検査の技術 1) 診察の介助 症状・生体機能管理技術の基礎知識 2) 検体検査（尿検査・便検査・喀痰検査）				講義
2 回	2. 検体検査の技術 1) 血液検査（静脈血採血・血糖測定）				演習
3～4 回	3. 呼吸・循環を整える技術 1) 酸素吸入療法（酸素ボンベの操作・管理含む） 2) 排痰ケア (1) 体位ドレナージ (2) 咳嗽介助 (3) 吸引（口腔・鼻腔・気管内吸引） (4) ネブライザーを用いた気道内加湿				演習
5～6 回	4. 検査・処置の介助技術 1) 穿刺（胸腔穿刺・腹腔穿刺・腰椎穿刺・骨髄穿刺） 2) 持続吸引（胸腔ドレナージ）				講義
7 回	5. 看護師の労働安全衛生上の事故防止の基礎知識 1) 放射線の被ばく防止 (1) 放射線の特徴 (2) 放射線療法の特徴 (3) 放射線被曝からの防護 2) 人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策 (1) 抗がん剤の特徴 (2) 抗がん剤暴露からの防護				講義
8 回	6. 検査の介助技術 1) X線検査（上部消化管造影） 2) 内視鏡検査 （上部消化管内視鏡検査、下部消化管内視鏡検査）				講義
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院				
評価方法	筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病理・病態生理学、疾病と治療Ⅰ・Ⅱ、生化学				
備考	演習中心の科目であり、モデル人形を使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。				

授業科目	診療に伴う技術	単位数	1 単位	時間数	30 時のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	諏訪 加代子 （臨床経験 23 年） ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	科学的根拠に基づいた診療に伴う援助に必要な基礎的能力を養う。				
科目目標	1. 診療の補助が安全安楽に考慮しながら実施できる。 2. 相手を尊重した態度や倫理性をもった態度で技術の提供ができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 与薬の基礎知識と薬剤の管理（毒薬、劇薬、麻薬）				演習
2 回	2. 経口与薬（バツカル錠、内服薬、舌下錠）の投与 3. 点眼、点鼻、経皮・外用薬の投与、座薬の投与				演習
3 回	4. 注射の基礎知識 5. 注射の実施法 1) 皮下注射 2) 皮内注射 3) 筋肉内注射				演習
4 回	6. 注射の実施法と管理				演習
5～7 回	1) 静脈内注射 （1）ワンショット・点滴静脈内注射 （2）静脈路確保 輸液ポンプ・シリンジポンプ（管理を含む） 2) 輸血法（血液製剤の管理を含む）				演習
8 回	7. 針刺し事故の防止・事故後の対応 8. 終了試験				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術』医学書院				
評価方法	筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病理・病態生理学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ、薬理学				
備考	演習中心の科目であり、モデル人形を使用し看護技術を実施します。事前学習を行い、演習に臨んで下さい。				

授業科目	看護過程	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	対象を理解するためのコミュニケーションを学び、対象に必要な看護を導き出すプロセスを学ぶ。				
科目目標	1. 看護過程の基盤となるコミュニケーションの特徴と重要性が理解できる。 2. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義が理解できる。 3. 看護過程の基盤となる考え方が理解できる。 4. 看護過程の各段階の基本的な考え方を理解し、事例をもとに、看護過程の展開の実際が理解できる。 5. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. コミュニケーション 1) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 2) 効果的なコミュニケーションの実際 3) コミュニケーション障害への対応				講義
2 回	2. 看護過程展開の技術 1) 看護過程とは				講義
3 回	2) 看護過程を展開する際に基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 倫理的判断 (4) リフレクション				講義
4 回	3. 看護過程の各段階 1 (1) アセスメント (情報の収集と分析) (2) 全体像の把握				講義
5 回	(3) 看護問題の明確化 (看護診断)				講義
6 回	4. 看護過程の各段階 2 (1) 看護計画 (2) 実施 (3) 評価				講義
7～11 回	5. 看護記録 6. 脳梗塞患者 (回復期) の看護展開 ・事例紹介 ・記録用紙の説明				個人ワーク
12～14 回	7. 事例を用いた看護過程の展開 情報収集・分析・関連図・看護診断・看護計画				個人ワーク
15 回	8. 事例を用いた看護過程の展開 関連図・看護計画 9. 終了試験 まとめ				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書:『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術 I』医学書院 参考書:『看護診断ハンドブック』医学書院 『患者さんの情報収集ガイドブック』メヂカルフレンド社				
評価方法	学習成果物 50 点 筆記試験 50 点				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、成人看護学概論 健康の回復と看護④「脳・神経機能障害/感覚機能障害」				
備考	1. 開講前にシラバスを確認し、事例内容に必要な既習学習内容の復習を行い講義に臨んでください。 2. 学習成果物の提出については、講義開始時に提示します。提出期限が守れない場合は評価の減点対象となります。				

授業科目	フィジカルアセスメント 演習	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	諏訪 加代子 (臨床経験 23 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	フィジカルアセスメントを用いた看護の実践ができるための方法を学ぶ。				
科目目標	1. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義が理解できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識と系統的フィジカルアセスメントの視点が理解できる 3. フィジカルイグザミネーションの方法が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. フィジカルアセスメントに必要な基礎知識『病気とのつながり』 1) ヘルスアセスメントとは 2) フィジカルアセスメントとは 3) フィジカルイグザミネーションとは				講義
2 回	2. フィジカルアセスメントに共通する技術 (問診、視診、触診、打診、聴診)				講義・演習
3 回	3. バイタルサインの測定				講義・演習
4 回	4. 呼吸器系のフィジカルアセスメント『息をする』 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
5 回	5. 循環器系のフィジカルアセスメント『物質の流通』 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
6 回	6. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント				講義・演習
7 回	7. 呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメント				講義・演習
8 回	8. 消化器系のフィジカルアセスメント 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
9 回	9. 筋・骨格系、神経系のフィジカルアセスメント『動く』 1) 基本的構造と機能 2) フィジカルイグザミネーション 3) アセスメントの視点				講義・演習
10～14 回	10. 事例検討 1) 必要なフィジカルイグザミネーションを考える 2) フィジカルイグザミネーションの実際 3) 得られた情報をアセスメントして看護の方向性を考える				演習 個人ワーク グループワーク
15 回	まとめ 終了試験				
准看時 授業内容	基礎看護技術				
教科書 参考書	教科書：『はじめてのフィジカルアセスメント』メヂカルフレンド社 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『看護形態機能学ワークブック』日本看護協会				
評価方法	筆記試験 100 点				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ				
備考	目的をもった患者観察が行えるために、フィジカルイグザミネーションをどのように用いるのか、また、イグザミネーションから得られた情報をどのようにアセスメントし、看護実践につなげていくのか演習を通して理解を深めていきましょう。				

授業科目	臨床看護総論	単位数	1 単位	時間数	15 時間のうち 7 時間（講師別）
担 当 者	坂井 典子 （臨床経験 28 年） ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	対象の症状及び治療・処置から看護実践を展開するときの基本的な思考過程に沿って看護援助を学ぶ。				
科目目標	1. 対象の症状の看護援助が理解できる。 2. 治療・処置の看護援助が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 発熱（体温管理） 1) 体温調節のメカニズム 2) 体温管理の技術（発熱・うつ熱・低体温）				講義・演習
2 回	2. 身体計測・包帯法 1) 身体計測の技術（身長・体重・皮下脂肪厚・腹囲） 2) 包帯法の技術（包帯法の目的・包帯の種類・援助方法）				講義・演習
3 回	3. 生体検査の看護（肺機能検査・心電図） 1) 肺機能検査（スパイロメトリー・スパイログラム・換気障害の分類） 2) 心電図（検査の種類・標準 12 誘導心電図の援助方法）				講義・演習
4 回	終了試験				
准看時 授業内容	基礎看護技術、臨床看護概論				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』 医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』 医学書院				
評価方法	筆記試験				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅰ～Ⅳ				
備考					

授業科目	地域で暮らす人と看護 (長島愛生園と地域)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間 (講師別)
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	1. 人々の暮らしの基盤となる地域について探求し、暮らしや地域の状況が健康に及ぼす影響を考える。 2. 障がい者 (児) とその家族が地域で暮らすための支援の実際から、地域で暮らし続けるための支援のあり方を学ぶ。				
科目目標	1. 地域で暮らす人々の暮らしが理解できる。 2. 地域とその地域における社会資源が理解できる。 3. 障がい者 (児) とその家族が地域で生活し続けるための課題、支援方法が考えられる。 4. より健康な生活に向けての支援の実際を学び、看護の役割について考えられる				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 人々の暮らしの理解 1) 暮らしとは 2) 暮らしと健康の関係 3) 暮らしの中で健康を捉える				講義 <

授業科目	地域で暮らす人と看護 (長島愛生園と地域)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 13 時間 (講師別)
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	1. 人々の暮らしの基盤となる地域について探求し、暮らしや地域の状況が健康に及ぼす影響を考える。 2. 障がい者 (児) とその家族が地域で暮らすための支援の実際から、地域で暮らし続けるための支援のあり方を学ぶ。				
科目目標	1. 地域で暮らす人々の暮らしが理解できる。 2. 地域とその地域における社会資源が理解できる。 3. 障がい者 (児) とその家族が地域で生活し続けるための課題、支援方法が考えられる。 4. より健康な生活に向けての支援の実際を学び、看護の役割について考えることができる				
回数	授業計画・授業内容				方法
1・2回	1. 長島の環境や人々の暮らしと健康 (課題の追求) 1) 長島愛生園で暮らす人々と暮らしの理解 2) 長島愛生園のフィールドワーク計画の立案				講義
3・4回	2. 長島愛生園の地域と入所者の暮らしの理解 1) 長島愛生園の地域の理解 2) 入所者の暮らしの理解				フィールドワーク
5・6回	3. 長島愛生園の地域と入所者の暮らしの理解				個人ワーク
7回	4. まとめ				発表
准看時 授業内容					
教科書 参考書	必要時資料配布、長島愛生園のホームページ 教科書:『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤』医学書院				
評価方法	プレゼンテーション、レポート				
関連科目	地域・在宅看護概論				
備考	長島愛生園で暮らす入所者の暮らしを理解し、支援の内容や必要性を考えましょう。				

授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅰ	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年)	学 年	2 学年	開講年次	1 学期
目的	病気や障害を抱えながら地域・在宅で生活する療養者と家族を理解し、地域・在宅における看護の展開について学ぶ。				
科目目標	1. 地域・在宅における看護展開の基盤となる考え方が理解できる。 2. 事例を通して、対象者のこれまでの生活や価値観を尊重しながら、地域・在宅看護の展開方法が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 地域・在宅看護過程の展開方法 1) 地域・在宅看護過程の基本 2) 地域・在宅看護過程の特徴				講義
2 回	2. 在宅で療養している COPD (慢性閉塞性肺疾患) 療養者の看護 1) 疾患の理解 COPD の病態・治療 (在宅酸素療法)・予後・看護				演習
3～4 回	2) デイケアにおける情報の整理・援助の必要性				演習
5～6 回	3) 訪問看護における情報の整理・援助の必要性				演習
7 回	3. まとめ				講義
8 回	終了試験				
准看時 授業内容	保健医療福祉の仕組み				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器』医学書院 『看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術』メヂカルフレンド社				
評価方法	学習成果物 30 点 筆記試験 70 点				
関連科目	疾病と治療Ⅰ、地域・在宅看護概論、地域・在宅看護援助技術論、老年看護援助論、老年看護技術論				
備考	1. 事例内容に必要な疾患の復習を行い講義に臨んでください。 2. 学習成果物の提出については、講義開始時に提示します。提出期限等も評価の対象となります。				

授業科目	成人看護学概論	単位数	1 単位	時間数	15 時間
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年)	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	成人期の生活と健康に関する基礎的知識を基盤とし、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護の方法を学ぶ。				
科目目標	1. 成人各期にある対象の特徴と看護の役割を理解できる。 2. 成人各期にある対象の健康の保持・増進・健康障害の予防に向けた看護が理解できる。 3. 成人期の生活や健康状態・健康問題に対する看護の考え方や方法論について理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 成人看護の理念と成人期にある対象の特徴 1) 対象の理解：発達段階・発達課題と各発達段階の特徴 2) 対象の生活：働いて生活を営むこと				講義
2 回	2. 生活と健康 1) 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 2) 保健・医療・福祉システムの概要と連携				講義
3 回 4～5 回	3. 成人への看護アプローチの基本 1) 生活のなかで健康行動を生み、はぐくむ援助 2) 健康問題をもつ大人と看護師の人間関係 3) 人々の集団における調和や変化を促す看護アプローチ 4) チームアプローチ 5) 看護におけるマネジメント 6) 看護実践における倫理的判断 7) 意思決定支援 8) 家族支援				講義
6 回	4. 健康をおびやかす要因と看護 1) 健康バランスの構成要素 2) 健康バランスに影響を及ぼす要因 3) 生活行動がもたらす健康問題とその予防				講義
7 回	5. さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 1) 移行支援の基礎知識 2) 継続的な移行を支える支援の実際				講義
8 回	6. 終了試験				
准看時 授業内容	成人看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論』医学書院 参考書：『国民衛生の動向』財団法人厚生統計協会				
評価方法	筆記試験				
関連科目	看護学概論 成人看護援助論Ⅰ～Ⅲ				
備考	成人期における対象は人生の中で最も変化に富み多くの影響因子が関連しています。その成人期にある対象を生活者という視点で捉え、成人看護を展開するために必要な知識を学びます。				

授業科目	成人看護援助論Ⅲ (急性期 回復期)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間 (講師別)
担 当 者	諏訪 加代子 (臨床経験 23 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	治療が必要な健康障害のある成人期の事例を通して、対象を理解し必要な看護ができる能力を養う。				
科目目標	1. 術前患者の全身状態を把握し、手術や麻酔のリスク低減に向けた看護が理解できる。 2. 術後合併症の予防と回復過程を促進するための看護が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～3回	1. 胃がんで腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の術前看護 1) 術前アセスメント 病態と術前検査から予測される術後合併症のリスク 麻酔や術式から予測される術後合併症のリスク 2) 術前に必要な看護 術前 OR・訓練・準備 3) 術後ベッドや部屋の準備				講義 グループワーク 講義・発表 講義・演習 講義・演習
4～5回	2. 胃がんで腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の術後看護 1) 術中・術後アセスメント 術中及び術後の情報から予測される術後合併症の判断 2) 術直後 (帰室時の看護) 3) 術後 1 日目の初回離床時の看護 点滴・ドレーン等留置のある患者の寝衣交換				
6～7回	3. 胃がんで腹腔鏡下幽門側胃切除術を受ける患者の回復期の看護 1) 胃切除に伴う機能的変化、術後経過のアセスメント 2) ダンピング症候群予防のための看護 (退院指導)				
8回	4. まとめ				
准看時 授業内容	成人看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕消化器』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』医学書院				
評価方法	学習成果物と筆記試験で 50 点				
関連科目	看護過程、臨床判断、臨床看護総論、解剖生理学、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅱ、成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ、フィジカルアセスメント演習、診療に伴う技術				
備考	成人看護学実習での活用ができるように、個人ワークおよびグループワークを通して、周手術期の看護の展開について理解を深めていきましょう。				

授業科目	成人看護援助論Ⅲ (慢性期)	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間 (講師別)
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	1 学期
目的	治療が必要な健康障害のある成人期の事例を通して、対象を理解し必要な看護ができる能力を養う。				
科目目標	健康障害のある成人及び家族の看護過程の展開ができる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～2 回	1. 肺がんで化学療法を受ける患者の看護 1) 肺がんの経過と看護 2) 化学療法をうける患者の看護 3) 放射線療法をうける患者の看護 4) 安楽に関する症状を示す患者への看護				講義 個人ワーク
3～7 回	2. 事例展開 肺がんで治療を受ける患者の事例をもとにアセスメントから看護計画までを演習				講義 個人ワーク
8 回	3. 終了試験とまとめ				
准看時 授業内容	成人看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔4〕臨床看護総論』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院				
評価方法	学習成果物と筆記試験で 50 点				
関連科目	看護過程、病態生理・病理学、疾病と治療Ⅰ、薬理学、成人看護学概論、フィジカルアセスメント演習				
備考	1. 開講前に事例を配布します。事例内容に必要な既習学習内容の復習を行い講義に臨んで下さい。 2. 学習成果物の提出期日が守れない場合は、評価の減点対象となります。				

授業科目	老年看護技術論	単位数	1 単位	時間数	30 時間 のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	諏訪 加代子 (臨床経験 23 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	加齢に伴う変化のある高齢者を理解し、対象の QOL を考慮した看護について学ぶ。				
科目目標	1. 老年看護を実践するために必要な加齢に伴う変化をふまえた思考過程が理解できる。 2. 誤嚥肺炎の患者の事例をもとに看護を展開し、対象に応じた看護の必要性が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～3 回	1. 事例を用いた看護過程の展開（誤嚥性肺炎の高齢者の事例） ・事例紹介 ・情報の整理・分析（クラスター2.4.6.7） ・看護問題の明確化 ・関連図作成				講義・演習
4 回	2. 事例を用いた看護過程の展開 ・看護計画の立案				講義・演習
5 回	3. 事例を用いた看護過程の展開 ・行動計画実施表（看護計画立案後）の立案				講義・演習
6～7 回	4. 事例の看護実践（公開演習） ・行動計画実施表での実践 ・行動計画実施表（経過記録）での振り返り				演習
8 回	5. 事例の看護実践の評価 ・看護問題の評価				演習
准看時 授業内容	老年看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 老年看護学』医学書院 『系統看護学講座 老年看護病態・疾患論』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院 『患者さんの情報収集ガイドブック』メヂカルフレンド社				
評価方法	学習成果物				
関連科目	解剖生理学、病態生理・病理学、成人看護学概論 健康の回復と看護④「脳・神経機能障害/感覚機能障害」 看護過程、老年看護学概論、老年看護援助論				
備考	1. 開講前に事例を提示します。事例内容に必要な学習を行い講義に臨んで下さい。 2. 学習成果物での評価となります。提出日が守れない場合は、評価の減点対象となります。				

授業科目	小児看護学概論	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年)	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	子どもの成長・発達の特徴を理解し、健全な成長・発達を促すための関わり方について学ぶ。また、子どもを取り巻く保健・医療・福祉について学ぶ。				
科目目標	1. 子どもと家族の概況・倫理的観点を知り、小児看護の役割と課題を理解する 2. 子どもの成長・発達の基本的な原則を理解する。 3. 各発達段階に応じた子どもの成長・発達を理解する。 4. 子どもと家族を取り巻く環境や社会を理解する。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 子どもの成長と発達 1) 成長・発達の概念と原則 2) 成長・発達に影響する因子 3) 成長・発達の評価				講義
2～3 回	2. 各発達段階における子どもの成長・発達 1) 形態的特徴と身体生理の特徴、各機能の発達 2) 知的発達と心理社会的発達				講義
4～7 回	3. 成長・発達にむけた子どもと家族の支援 1) 栄養と食事への支援 2) 日常生活習慣獲得への支援 3) 遊びと学習 4) 安全教育				講義
8～10 回	4. 小児看護の特徴 1) 小児医療・看護の変遷と課題 2) 小児看護の目標と役割 3) 小児医療・小児看護における倫理				講義
11 回	5. 子どもと家族を取り巻く環境 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種 5) 学校保健 6) 食育 7) 特別支援教育 8) 臓器移植法				講義
12 回	6. 家族の特徴と家族アセスメント 1) 家族とは 2) 現代家族の特徴とアセスメント				講義
13 回	7. 入院環境 1) 治療・処置・検査にのぞむ場 2) 安全かつ安心して生活にのぞむ場				講義
14 回	8. 子どもの虐待への看護				講義
15 回	9. まとめ 終了試験				
准看時 授業内容	母子看護、人間と生活・社会、栄養、保健医療福祉の仕組み、看護と法律				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論』 医学書院 参考書：『国民衛生の動向』 財団法人厚生統計協会				
評価方法	筆記試験				
関連科目	心理学、人間関係論、看護倫理、社会福祉、公衆衛生、母性看護学概論				
備考	小児看護の対象である子どもについて理解を深めましょう。子どもを取り巻く環境として、現代家族・社会の状況を学習します。子どもに関する施策や多発する事故について関心を持ち、新聞記事やニュースを見て下さい。				

授業科目	小児看護援助論	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 15 時間（講師別）
担 当 者	治郎丸 倫子 (臨床経験 10 年) ※他担当者あり	学 年	2 学年	開講年次	1 学期
目的	健康障害がある子どもや家族の特徴を理解し、子どもの疾病の経過と発達段階を踏まえた看護を学ぶ。				
科目目標	1. 健康障害を持つ子どもと家族の特徴と看護の役割が理解できる。 2. 健康障害がある子どもの疾病の経過から看護の特徴が理解できる。 3. 健康障害がある子どもに必要な看護が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護とは				講義
2～3 回	2. 子どもにおける疾病の経過と発達段階をふまえた看護 1) 急性期にある子どもと家族の看護 2) 慢性期にある子どもと家族の看護 3) 終末期の子どもと家族の看護 4) 周手術期の子どもと家族の看護 5) 在宅で生活をする子どもと家族の看護				講義
4～7 回	3. 健康障害がある子どもと家族の看護の展開 事例：白血病、幼児期 1) 事例患児とその家族の状態についてのアセスメント 2) 患児の状態に応じた看護				演習 ロールプレイ
8 回	4. まとめ				
准看時 授業内容	母子看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔1〕小児看護学概論 小児臨床看護総論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 小児看護学〔2〕小児臨床看護各論』医学書院 参考書：『根拠と事故防止からみた小児看護技術』医学書院				
評価方法	学習成果物（30 点）、筆記試験（20 点）				
関連科目	看護過程、フィジカルアセスメント演習、小児健康論				
備考	子どもにおける疾病の経過と発達段階をふまえた看護で経過別・各発達段階別の事例を通じて看護の考え方を学習します。疾病の病態や治療・看護を学習し、授業に臨んで下さい。				

授業科目	精神看護学概論	単位数	1 単位	時間数	30 時間のうち 11 時間（講師別）
担 当 者	中山 美加 (臨床医経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	1 学年	開講年次	2 学期
目的	社会生活における心の健康と精神保健について学ぶとともに、精神保健医療福祉に関する法律・制度の歴史的な変遷をふまえ、人権尊重について学ぶ。				
科目目標	1. 人間の心の構造と発達、自己が形成される過程を理解できる。 2. 看護の対象としての家族と集団について理解できる。 3. 患者-看護師関係の理論について理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 精神看護学の概念 1) 精神看護学とはなにか 2) 精神看護学の基本的な考え方 3) 「心のケア」と日本社会 4) 精神看護の課題				講義
2 回	2. 心のはたらきと人格の形成 1) 心のはたらき 2) 心のしくみと人格の発達 (1) 意識と無意識—精神分析と精神力動理論 (2) 自我の防衛機制				講義
3 回	3. 関係のなかの人間 1) システムとしての人間関係 2) 全体としての家族 3) 人間と集団				講義
4～5 回	4. ケアの人間関係 1) ケア的前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法 4) 関係をアセスメントする 5) 患者-看護師関係における感情体験 (1) 患者—看護師理論 ①ペプロー、トラベルビー、川野雅資、外口玉子				講義
准看時 授業内容	精神看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開』医学書院				
評価方法	筆記試験				
関連科目	心理学、人間関係論、精神健康論				
備考					

授業科目	精神看護援助論	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	中山 美加 (臨床経験 5 年)	学 年	2 学年	開講年次	1 学期
目的	精神に障がいのある対象を理解し、看護を考える。また自己洞察をおこない治療的コミュニケーション方法を学ぶ。				
科目目標	1. 事例を用いて精神に障がいのある対象を理解できる。 2. 精神障がいのある対象とのコミュニケーション方法が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1～8 回	1. 統合失調症患者の看護過程の展開 1) 情報の整理 2) 情報の分析・解釈 3) 関連図の作成 5) 看護計画立案				講義・ 個人ワーク
9 回	2. 統合失調症患者の看護過程の展開まとめ				講義
10 回	3. 精神障がいのある人とのコミュニケーション 1) 治療的コミュニケーションと非効果的コミュニケーション 2) 精神障がいのある人との関係の振り返り				講義
11～12 回	4. 精神障がいの対象とのコミュニケーション 1) うつ症状のある人とのコミュニケーション 2) 躁状態にある人とのコミュニケーション 3) 幻覚・妄想のある人とのコミュニケーション				講義
13～14 回	5. 精神障がいのある人とのコミュニケーション				演習
15 回	6. 終了試験・まとめ				
准看時 授業内容	精神看護				
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕精神看護の基礎』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔2〕精神看護の展開』医学書院 参考書：『看護診断ハンドブック』医学書院				
評価方法	学習成果物 70 点、筆記試験 30 点				
関連科目	精神看護学概論、精神健康論				
備考					

授業科目	臨床看護技術演習	単位数	1 単位	時間数	30 時間
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年)	学 年	2 学年	開講年次	2 学期
目的	複数患者における看護実践を通して、臨床判断を用いた状況判断を学ぶ。				
科目目標	1. 複数患者の看護実践を通して優先順位・時間配分を判断することができる。 2. 状況に応じた対応および医療チームの連携の重要性が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 回	1. 複数患者への看護実践とは 1) 時間配分や優先度の考え方 2) 予期しない患者の反応への予測と対処方法の選択 3) 看護マネジメントにおけるチームメンバーとの連携・協働				講義
2 回	2. 患者の持つ権利と倫理観に基づいた看護実践				個人ワーク
3 回	3. 複数患者の看護記録 1) 複数患者への看護援助の時間配分や優先順位の判断				
4 回	4. 複数患者の把握 1) 複数受け持ち患者（2 事例）の全体像の把握				個人ワーク 個人ワーク
5 回	5. 複数患者の把握・看護実践の検討 1) 複数受け持ち患者（3 事例）の全体像の把握 2) 複数受け持ち患者（3 事例）の看護実践の検討				個人ワーク
6～7 回	6～7. 複数患者の状況判断の検討 1) 複数受け持ち患者（3 事例）の状況判断の検討				個人・グループ ワーク
8～9 回	8～9. 複数患者の状況判断と看護実践の検討 1) 複数受け持ち患者（3 事例）の状況判断と看護実践の検討				個人・グループ ワーク
10～11 回	10～11. 受け持ち患者（3 事例）の各事例における看護の実践 1) 受け持ち患者の状況判断と看護実践				演習
12～13 回	12～13. 複数患者への看護の実践 1) 複数受け持ち患者（3 事例）の状況判断と看護実践				公開演習
14 回	14. 複数患者への看護実践の振り返り				講義・ 個人ワーク
15 回	15. 終了試験・まとめ				
准看時 授業内容					
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔1〕看護概論』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ』医学書院				
評価方法	学習成果物、筆記試験				
関連科目	診療に伴う技術、微生物、医療安全、看護管理、看護倫理				
備考	脳梗塞、慢性心不全、輸液療法、基本的な日常生活援助が学習できる準備をしてくて下さい。				

授業科目	災害・国際看護	単位数	1 単位	時間数	30 時のうち 8 時間（講師別）
担 当 者	遠藤 裕子 (臨床経験 5 年) ※他担当者あり	学 年	2 学年	開講年次	2 学期
目的	1. 災害看護の基礎的知識を学ぶ。 2. 諸外国の文化を考慮した看護、開発協力・国際救援を学ぶ。				
科目目標	1. 災害の定義および災害医療の概要が理解できる。 2. 我が国における過去の災害から基礎知識を学び、災害各期におけるネットワーク、多職種との連携の実際が理解できる。				
回数	授業計画・授業内容				方法
1 ～ 4 回	1. 急性期・亜急性期における避難所での災害看護 1) 避難所での生活 2) 避難所での看護師の役割				講義 演習
准看時 授業内容					
教科書 参考書	教科書：『系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔3〕災害看護学・国際看護学』医学書院				
評価方法	筆記試験、学習成果物				
関連科目					
備考					